



2026年度 日本語教育学会春季大会

2026(令和8)年5月23・24日／オンライン開催

目 次

| | |
|---------------|----|
| 開催概要／目次 | 2 |
| 大会日程 | 3 |
| 開催のご挨拶 | 4 |
| 発表一覧：パネルセッション | 5 |
| 発表一覧：口頭発表 | 6 |
| 発表一覧：ポスター発表 | 9 |
| 同時開催イベント | 12 |

◆今大会の開催方法について◆

2026年度日本語教育学会春季大会は、全面的にオンライン開催となります。学会発表については、当日リアルタイムでオンライン発表、質疑応答を行います。昨年度までオンライン大会開催時に設置していた大会特設ウェブサイトの設置はなくなりました。オンデマンドによるビデオ配信や資料掲示もありません。大会当日のZoomURL等は、5月22日(金)までに、事前参加登録が完了した方にお知らせいたします。オンライン開催におけるご参加は、事前参加登録のみとなります(当日受付は行いません)。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費：
 - 【事前登録 ※お支払い時に別途手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員(有効期限付き学生証を提出済みの方) 2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】オンライン開催では行いません。
- ◆事前登録期間：2026年4月16日(木)～5月15日(金)
- ◆問合せ先：
 - E-mail: taikai-office@nkg.or.jp
 - TEL: 03-3262-4291

◆大会日程◆

* 印のイベントの概要は、12～14ページをご覧ください。

5月23日(土)



5月24日(日)

開催のご挨拶

2025 年末の在留外国人数は約 413 万人で、2025 年の 1 年間で約 36 万人増加しました（出入国在留管理庁、2026 年 1 月 10 日速報）。現在大きな反響を呼んでいる『移民 1000 万人時代 — 2040 年の日本の姿』（朝日新書）で毛受敏浩氏は、2040 年代には在留外国人 1000 万人という「移民 1000 万人時代」を迎えると予想し、そうした現実について政治家や関係者だけでなく国民の間でも広く認識を共有する必要があると指摘し、外国人の受入れについて正面から議論し、その包摂に全力を尽くす必要があると警鐘を鳴らしています。周知のように「移民 1000 万人時代」で毛受氏が「移民」としている主要な集団は、育成就労→特定技能 1 号→特定技能 2 号という 3 つのステージで日本で仕事をし暮らすこととなる外国出身者です。いわゆる「外国人問題」の浮上を受けて政府でも、去る 1 月 23 日に「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」（外国人の受入れ・秩序ある共生社会実現に関する関係閣僚会議決定）を公表しましたが、この総合的対応策に先立って、同関係閣僚会議のもとに設置された有識者会議の意見書が提出・公表されました。同意見書の第 2 節「国民及び我が国で生活する外国人にとって安全・安心な秩序ある共生社会」の在り方で重要な視点が提示されているので、紹介したいと思います。即ち、「多くの外国人は、勤勉で社会規範を理解し、地域・産業を支え、日本社会に貢献してくれている存在である」と評価した上で、日本の人と外国出身者を並置して「互いに尊重し、安全・安心に生活し、共に繁栄する社会の実現を目指すべき」ことを指摘するとともに、「秩序は社会の土台、多様性は社会の力であり、この両者を両立させることが、真の秩序ある共生社会への道である」と高らかに宣言しています。こうした視点、とりわけ「多様性は社会の力」というポジティブな捉え方は、「移民 1000 万人時代」を迎えようとしている日本においてしっかりと共有するべき視点だと思います。共生社会の実現に資する日本語教育もこうした視点に立脚するものでしょう。

本大会では、「変化の時代をとらえる日本語教育の知—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」を大会テーマとしています。「変化の時代」には、上で述べた「移民 1000 万人時代」という要因だけでなく、AI 技術の発達や国際政治や社会の不安定化などの要因も含まれます。日本語教育の研究はどのような知を生み出し、それを誰に向けて発信し、何を支えるものとなるのでしょうか。2 日間、皆さんといっしょに考え、意見を交わし、さらに広く社会への発信につなげたいと思います。

公益社団法人日本語教育学会会長 西口光一

パネルセッション

第1会場

23日(土)
16:00～17:30
(90分)

①

子どもの日本語教育の教師教育者育成の仕組みづくり

—研修プログラムの実装化に向けて—

齋藤ひろみ (東京学芸大学)

浜田麻里 (京都教育大学)

和泉元千春 (奈良教育大学)

第1会場

24日(日)
14:30～16:00
(90分)

②

外国人材のキャリアアップを支える日本語学習環境をどう整備する?

品田潤子 (BPC 研修サービス)

岩本雅子 (国際交流基金)

平山智之 (日本国際協力センター)

近藤彩 (昭和女子大学)

口頭発表

★印は、今大会のテーマ「変化の時代をとらえる日本語教育の知—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」に関連した発表です。

午前の部 [10:40 ~ 12:30 (各 30 分)]

| | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>司会： 今西利之（京都産業大学）</p> | <p>司会： 神村初美（創価大学）</p> | <p>司会： 平田未季（北海道大学）</p> |
| 10:40 ~ 11:10 | <p>① 会話形式の聴解テストにおける未知の有声・無声対立オノマトペの意味推測—即時回想法によるデータの分析を通じて— 柏晨悦（お茶の水女子大学）</p> | <p>④★ 「しない」「できない」という専門性発揮のあり方—難民等に対する日本語教育の実践から問い直す— 伴野崇生（慶應義塾大学）</p> | <p>⑦★ 当該発表は発表者の都合により中止となりました。</p> |
| 11:20 ~ 11:50 | <p>② 中国人日本語学習者のメモ取り行動が聴解テストの成績に及ぼす影響—異なる種類の聴解問題の分析を通して— 金軒辰（元目白大学大学院生）</p> | <p>⑤ ある教師教育者のペレジヴァーニエ—社会文化理論から見た日本語教師養成課程におけるドラマと教育者の成長— 加藤伸彦（京都外国語大学）</p> | <p>⑧ 理工系留学生の専門学習を支える力学語彙の特徴—高校物理との比較を通して— 久保田育美（明石工業高等専門学校） 杉山暦（札幌大学）</p> |
| 12:00 ~ 12:30 | <p>③★ 画像生成 AI 漫画教材による「は」と「が」の暗示的学習 甘利実乃（東京外国語大学大学院生）</p> | <p>⑥ 日本語教師養成における教師教育者の日本語教育観の影響—態度涵養の実践に着目して— 香月裕介（神戸学院大学） 鴈野恵（筑紫女学園大学） 水戸貴久（立命館アジア太平洋大学）</p> | <p>⑨ 就労場面の課題遂行における教室学習者の談話の特徴 渡部裕子（東洋大学） 大石寧子（元徳島大学） 浅見恵子（日本国際協力センター） 榎原恵美（同） 三浦優子（ISI ランゲージスクール）</p> |

口頭発表

午後の部 [13:30 ~ 14:40 (各 30 分)]

★印は、今大会のテーマ「変化の時代をとらえる日本語教育の知
—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」に関連した発表です。

| | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>司会： 河野俊之（横浜国立大学）</p> | <p>司会： 本田明子 （立命館アジア太平洋大学）</p> | <p>司会： 北出慶子（立命館大学）</p> |
| 13:30 ~ 14:00 | <p>⑩ 新たな多文化共生の局面—「ことばのヤングケアラー」問題に着目して— 宮本恭子（島根大学）</p> | <p>⑫★ 作文評価における AI 評価導入の課題—人間評価との比較とノンネイティブ日本語教師の認識に着目して— 石山友之（国際交流基金）</p> | <p>⑭ 国際共修授業における少数派留学生の学びと自己変容過程—一般学生との関係性に注目して— 安部陽子（大阪大学）</p> |
| 14:10 ~ 14:40 | <p>⑪ 「やさしい日本語」をめぐる理論的枠組みの整理と再定義—日本語母語話者を中心とした視点から— 張斌（大阪大学大学院生）</p> | <p>⑬★ 移民・難民について学ぶ CLIL 授業に対する評価—生成 AI による毎回の振り返りと期末レポート分析から— 渡部倫子（広島大学） 奥野由紀子（東京都立大学）</p> | <p>⑮ ケースメソッドによるディスカッション授業を通して学習者は何を考えたか—教師の授業計画との比較— 鈴木綾乃（横浜市立大学） アドゥアヨムアヘゴ希佳子（宝塚大学）</p> |

口頭発表

★印は、今大会のテーマ「変化の時代をとらえる日本語教育の知—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」に関連した発表です。

第1会場

司会：
陳秀茵（東洋大学）

9:30 ~ 10:00

⑩
依頼行動に関わる諸要素の分析—教育内容の再検討を目指して—
任ジェヒ（立教大学），
アドゥアヨムアヘゴ希佳子（宝塚大学），
坂本恵（東京外国語大学名誉教授），
徳間晴美（明治学院大学），平松友紀（早稲田大学）

10:10 ~ 10:40

⑪
文法項目「タビニ」を自然な運用につなげるための文脈化の検討
富田郁子（名古屋経営会計専門学校）

10:50 ~ 11:20

⑫
日本語指示詞の直示素性と質的素性の使用にみる中間言語の発達—中国語を母語とする日本語学習者を対象に—
林苗（明海大学）

11:30 ~ 12:00

⑬
ストーリーテリングタスクに見られる初級日本語学習者の発話の言い直しと繰り返しの特徴
曾子芸（広島大学大学院生）

第2会場

司会：
丸山真貴子（目白大学短期大学部）

⑭★
介護現場を生きる技能実習生と行為主体性—専門性としての「傾聴」をめぐるディスコース研究—

小川美香（筑波大学）

⑮★
平和のための日本語教育再考—平和俳句交換を通じた学びと事前タスクの関連性—

松永典子（九州大学）

⑯★
国際識字年を契機とした識字教育の変容—多言語背景を持つ成人学習者（1975～2015）—

松下恵子（関西学院大学）

⑰★
日本語非母語話者に対する医療コミュニケーション

佐藤理恵子（東京大学大学院生）

ポスター発表

★印は、今大会のテーマ「変化の時代をとらえる日本語教育の知—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」に関連した発表です。

第1部 [9:40 ~ 10:20 (各 40 分)]

第1会場

- ①
外国につながるのある中高生対象の考える力を
育て伝えるための作文教材の開発
志村ゆかり (津田塾大学)

第2会場

- ②★
生活日本語教材は文化庁「生活 Can-do」にどう
対応しているか
松井佑樹 (早稲田大学大学院生)
新井智大 (明治大学大学院生)
松下達彦 (国立国語研究所)

第3会場

- ③
当該発表は発表者の都合により
中止となりました。

第4会場

- ④★
大学院留学生のキャリア形成における人的資本と
社会関係資本の構築—インタビューの質的分析を
通して—
寅丸真澄 (早稲田大学)
佐藤正則 (山野美容芸術短期大学)
松本明香 (東京立正短期大学)

ポスター発表

★印は、今大会のテーマ「変化の時代をとらえる日本語教育の知—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」に関連した発表です。

第2部 [11:00 ~ 11:40 (各 40 分)]

第1会場

⑤★

地域日本語教室／日本語活動の参加者間にみられる不均衡な関係性への気づき

中野玲子 (Kaigo と日本語つむぎの会)
和田貴子 (HORIZOPIC)

第2会場

⑥★

日本語教師による「仲介」はいかになされるか—学習者の悩み解決をめぐる言語行動から—

韋夢瑤 (早稲田大学大学院生)

第3会場

⑦

日本語教育における「できる」をどう捉えるか—「巧みさ」デクステリティとしての言語コミュニケーション能力と方略—

大河原尚 (大東文化大学)

第4会場

⑧

カンボジアにおける日本語学習動機—カンボジア人日本語教師に着目して—

細井駿吾 (流通経済大学)

ポスター発表

★印は、今大会のテーマ「変化の時代をとらえる日本語教育の知—「共に生きる社会」とことばをつなぐために—」に関連した発表です。

第3部 [13:30 ~ 14:10 (各 40 分)]

第1会場

⑨★

自動車整備士養成教科書の計量的調査—「やさ
にちチェッカー」を使用したレベル間比較—

日暮康晴 (長崎大学)

第2会場

⑩★

小学校教科書で基本動詞「いる」「ある」はどう
使われているか—使用実態を踏まえた学習支援に向
けて—

山本裕子 (愛知淑徳大学)

鷺見幸美 (名古屋大学)

川村よし子 (チュウ太プロジェクト)

第3会場

⑪

入国前講習における大学生インターンシップの意
義—技能実習生候補者への日本語教育実践を通して—

渡辺裕美 (高知大学)

わかばさんいらっしやい

[5月23日(土) 12:30 ~ 13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加しているのかな?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などを説明します。大会当日は、動画の内容について簡単に質疑応答を行った後に「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士で交流できる場を用意します。楽しい出会いがあると大会はもっと楽しくなり、大会終了後もネットワークは広がっていくでしょう。

参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加、お待ちしております。

日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) 研究会 紹介ブース

[5月23日(土) 12:30 ~ 13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 連携協力委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) 研究会紹介ブースでは、Net-Jに加盟する学会・研究会の専門分野の最新情報や、当該学会・研究会の取り組みについて、ご紹介いたします。今回は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ (AJG) 研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、ビジネス日本語研究会、「看護と介護の日本語教育」研究会が参加します。当該分野の研究・実践に興味がある方の、個別の相談をお受けすることも可能です。関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野に興味のある方、入会を考えている方のご来場をお待ちしています。なお、加盟団体の詳しい情報については、各学会・研究会のサイトをご覧ください。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育事務局までご相談ください。

賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等]

[5月23日(土) 14:50～15:50]

主催：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本学会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、56 団体が入会しています（2026 年 3 月現在）。

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本学会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。ぜひご参加ください。

<出展団体名…キーワード>

- ・株式会社アークアカデミー…活動紹介／介護の日本語教え方講座

- ・一般社団法人 Global 8…日本語会話力評価／ACTFL 準拠の OPI c テスト

- ・独立行政法人国際交流基金…日本語試験の紹介／教材紹介

- ・国書刊行会／国書日本語学校…書籍紹介／教材紹介

- ・コスモピア株式会社…日本語多読リーダー読み放題紹介／書籍紹介

- ・コミュニケーション学院…実践紹介

- ・株式会社サインウェーブ…日本語学習アプリ紹介／AI による発話採点

- ・株式会社スリーエーネットワーク…書籍紹介／教材紹介

- ・一般財団法人日本国際協力センター…就労分野の日本語教育／教材モデルカリキュラムの紹介

- ・株式会社凡人社…日本語教育関連の教材／書籍の紹介

- ・株式会社モダン…日本語教育アプリ紹介／協働研究開発

- ・合同会社 Logos…AI で教材作成／セミナー

2027年度以降、日本語教育学会の大会はどう変わる？ —変更の内容と意義について—

[5月24日（日）12:10～12:40（30分）]

主催：公益社団法人日本語教育学会 会長・副会長

2025年度秋季大会の説明会にてご紹介したように、「第3次中期計画」では「大会事業の抜本的な見直し」が重要な項目として位置づけられました。この点については、2025年度に組織された大会事業検討ワーキンググループが、今後の大会の内容等に関して様々な方針を検討し、2025年度末に答申を行いました。

この説明会では、この答申に盛り込まれた主な変更点について、そのような結論に至った理由も含めて、ご説明申し上げます。2027年度以降は春の大会は「交流」に重きを置いた対面開催、秋の大会は「研究」に重きを置いたオンライン開催となり、開催方式の違い以上にそれぞれの特色を打ち出したいと考えております。対面開催では、会場の形態がこれまでと大きく変化します。オンライン開催では、これまでになかった新しい試みを多数盛り込みました。加えて、今後の大会の在り方や方向性についても皆様のご意見を頂き、共有する場にしたいと考えています。質疑応答の時間も設けますので、みなさまも積極的にご質問やコメントをお寄せください。